



平成30年6月26日
佛教大学附属幼稚園

変身！お母さんありがとう

園長 田中典彦

今年とは本格的な梅雨のようです。雨の多い季節は大変過ごしにくいものです。なんだか体全体が重く感じる気がします。けれど日本の国ではこれも大切な気候なのだそうです。田植えもすんで、今がイネにとって最も水の必要な時機なのだそうです。自然が活気づいて、すべての生き物たちが躍動的となります。個人的にはとっても好きな季節です。

先日、副園長先生から「園長さんは雨男ですか？登園する日は雨ばかりですね」って言われました。そう言えば園に来る日は雨が多いような気がします。その日も少し雨が降っていたように記憶していますが、子どもたちの素晴らしい光景を目にしました。ちょうど私の部屋の向かいのクラスから園児達がいっせいに出てきて、なにやらわいわい言っているのです。よく見ていると手に蝶を持っていて、それを庭に放っているのです。「ちょっと雨が降っているけどだいじょうぶ？」「元気にね！好きなところへ飛んでってね！」「きれいなお花あるからね、そこへ行って、たくさんおいしい蜜を飲んでね」って、大きな声で、みんなで見送っているのです。それは微笑ましい光景でした。こんな子どもたちの素直な気持ちを大切にしたいものです。

そう言えば数週間ほど前だったでしょうか、各クラスの前に飼育箱が置かれてあって青虫が飼われているのを見たのですが、もうサナギになったということを目にしました。興味があるので、あるクラスの飼育箱をみせてもらったことがありました。どうやらそのサナギたちが蝶に変身したようです。正式には変態ですが、こどもの眼には変身なのです。「あんな青虫がこんなにきれいな蝶の姿になるなんて？なんでだろう？」と言うのが子どもたちのころでしょう。驚きながら興味を持って見ていたのだらうと思います。

まえにもお書きしましたが、少しおさらいをしておきたいと思います。

その昔ブッダと呼ばれた人が、6年間の長い修行と1週間の瞑想によって見出された「諸行無常」はあらゆる存在の根底に見出された真理であるといえるでしょう。仏教では、姿形をもって現れているもの（現象存在）はみな移り変わりながらあることは、わたしたちが現前の事実として日常経験していることであるから、特別な証明を必要としない自明のことであるとされています。無常という表現から一般的に「減してゆくこと・衰退すること」といったように、悪い方向への変化と理解されがちですが、そうではなく、よい方向への変化つまり形成をも意味していることを見失ってはなりません。蕾が花と開くのも、花が散って実となってゆくのも無常なのです。青虫の変身もまたそうです。あんなに素晴らしいきれいな蝶へと移り変わるのです。

人間も同じように変身しているのです。それはお母さんのお腹の中で起こっているのです。この変身は今の科学の力でも同じことをすることは不可能だといわれています。お母さんの力ってすごいですね。わずか10ヶ月の間にこんなおおきなしごとをされるなんて。今さらながら驚きと敬意を表さねばなりません。

そしてこの世に生んでいただいてからも成長という移り変わりをしてゆくのです。それが幼稚園児の頃が最も大きいのです。この大切な時期を支援させていただく私たちはしっかりとそれを見守り、そして何かを加えてゆくようにしなければなりません。幼稚園ではまずよい生活習慣を身につけてゆけるように願っております。